

▲ かがわ文化芸術祭2016参加公演

高松交響楽団

第116回定期演奏会

創立65周年記念 vol.2

弦セレ

洗練された優雅な調べ

×

惑星

壮大で神秘的な響き



2016 11.20 日 開演 14:00

香川県県民ホール 大ホール
[レクザムホール]

主催：高松交響楽団 (TSO)
協力：高松第一高等学校合唱部
後援：香川県、高松市、朝日新聞高松総局、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、OHK岡山放送、KBN香川テレビ放送網株式会社、CMSケーブルメディア四国、RSK山陽放送、KSB瀬戸内海放送、CVC中讃テレビ、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、FM香川、FM815、香川こまち、高松リビング新聞社、ナイスタウン出版

皆様、ようこそお越し下さいました。

今回の定期演奏会では、創立65周年記念シリーズの最終公演 (vol.2) として、オーケストラの「要」ともいえる弦楽器のみで演奏する、洗練された優雅な調べで名高いチャイコフスキーの「弦楽セレナーデ」、そして、ホルストが、大宇宙をテーマに大オーケストラのために作曲した、壮大で神秘的な響きで名高い組曲「惑星」全曲を、高松第一高等学校合唱部の皆さんの協力を得て演奏致します。

指揮には、2大指揮者コンクールで優勝し、東京ニューシティ管弦楽団正指揮者等、多岐に活躍される曾我大介氏を、当団として初めて招聘いたしました。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

弦楽セレナーデ ハ長調 (P.I.チャイコフスキー)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー (1840 ~ 1893) は、1880年に、モーツァルトへの深い尊敬の念から、モーツァルトが生きていた当時の主流演奏形態であった「弦楽合奏」の為の作品を書きました。チャイコフスキー自身、「強い内的衝動によって書かれ、芸術的な価値を失わない」とこの曲にコメントしており、この曲の仕上がりに強い自信を持っていたようです。その自信通り、モーツァルトの名曲の数々とも比肩する名曲となっています。

ところで、彼は、ドレミファソラシドといった「ただの音階」を、音楽に変える名人でした。そういう作曲の仕方を「凡人」がやれば、ただの手抜きですが、彼は、まるで魔法の様に、ただの音階を万人の心を捉える素敵なメロディに変えてしまうのです。これは彼の天才ゆえの業です。そして、この曲の中にもそういった部分が沢山出てきます。マニアックな聴き方ですが、どれだけ、ただの音階が効果的に使われているか、探しながら聴いてみるのも面白いかも知れません。



チャイコフスキー
(1880年頃)

第1楽章 Allegro Moderato

作曲者自身は「モーツァルトへのオマージュ、模倣」と自ら述べています。形式面では、モーツァルトが活躍した18世紀からの伝統的な「ソナチネ形式」が取られていますので、確かにそういう部分もありますが、音楽そのものは、チャイコフスキーの個性全開です。長調なのに何故か少しもの悲しい、極めて印象的な序奏にはじまります。この序奏のテーマの骨組みは、まさに、ただの音階です。やがてそれが沈滞し、主部に入ると、広大なロシアの大地を表す様な大らかな第1主題と、軽やかで心躍るような第2主題がでてきて、それらがソナチネ形式の定型通り二度繰り返された後、再び序奏が回帰します。

第2楽章 Waltz; Moderato (Tempo di Valse)

チャイコフスキーはロシア人でしたが、ウイナ・ワルツにも強い憧れを持っており、彼自身も沢山のワルツを書きました。また、それを大曲の中の1つの楽章として置くこともしばしばでした。交響曲第5番の第3楽章や、3大バレエ「胡桃割り人形」「眠れる森の美女」「白鳥の湖」の中の有名なワルツ等々…。この楽章もそんな中の一つですが、弦楽合奏ならではの上品で優雅なワルツです。優雅な中に、どこか儂い感じも漂っています。

第3楽章 Elegie; Larghetto elegiaco

「エレジー」つまり「哀歌」と題されたこの楽章ですが、「哀しみ」にも色々な種類があると思います。この楽章で表現された「哀しみ」はどのようなものでしょう。それは、号泣・慟哭の様な激しい感情ではありません。例えるなら「晩秋の夕暮れどき、一人物思いにふけていると、気がついたらうっすらと目に涙が浮かんでいた。」というような趣の、大変甘くセンチメンタルな楽想を持った楽章です。

第4楽章 Finale (Tema russo) ; Andante — Allegro con spirito

この楽章は「ロシアの主題によるフィナーレ」という表題がついており、ロシア民謡を基に作られた主題が用いられています。最初は3楽章の少し悲しい気持ちを引きずりながらも、何か楽しい事が起こりそうな期待を含んだ序奏から始まります。やがて、澁刺としたロシア舞曲調の1つめの主題が始まります。2つめの主題はチェロが奏する明るい歌謡調のメロディです。否応なしに盛り上がる音楽です。弦楽合奏だけでこれだけの迫力を引き出せるのも彼ならではの業です。そして、一体どのような大団円を迎えるのか…。それは聴いてみて下さい！

組曲「惑星」(G.ホルスト)

イギリスの作曲家グスターヴ・ホルスト(1874～1934)は、学校教師が本職で、その傍らで作曲をする日曜作曲家でしたが、彼は、吹奏楽・弦楽合奏・オーケストラと、大きなアンサンブルのジャンルで名作を遺しています。そんな彼の、オーケストラ用の作品はもとより、全作品の中で最も有名な物が、本日演奏する「惑星」です。

ホルストはこの曲において、太陽系を構成する、地球を除く7つの惑星それぞれについての「占星学」を元に、そのイメージを、大オーケストラの音楽で表現しました。トロンボーン奏者でもあった彼は、弦楽器だけでなく、管楽器の扱いにも長けており、全楽器が縦横無尽に活躍します。

余談ですが、この組曲作曲後、1930年に、太陽系新惑星として「冥王星」が発見され、グスターヴ・ホルストは、それも作曲しようとしたが、完成する前に寿命を全うしてしまいました。しかし、2006年に冥王星は「準惑星」に降格され、作曲できなかったのは結果としては良かったことになりました。

そういった余談はともかく、19世紀ごろまでの音楽では、「大宇宙」をテーマにしたものはあまり例が無く、本作品は、20世紀以降の音楽ならではのといえるのではないのでしょうか。大宇宙の音楽を存分にお楽しみ下さい。

第1曲：火星 - 戦争の神 組曲の開始を飾るこの楽章は、強烈なインパクトを残します。5拍子といういびつな拍子で、弦楽器の全員が、弓の「毛」ではなく「木」の部分で弦を叩くという異様な特殊奏法に始まり、その異様さは次第に全管弦楽に波及していき、荒々しい大迫力の音楽が繰り返されます。

第2曲：金星 - 平和の神 1曲目の喧騒はどこへやら。がらりと雰囲気を変えて、ホルンの優しいソロにはじまります。室内楽的な音楽です。フルート・オーボエ・弦楽器が、清らかで神秘的な音楽を奏でていきます。チェレスタの響きがこの楽章をより夢幻的にしています。

第3曲：水星 - 翼のある使いの神 最も太陽に近い惑星である水星は、実際には灼熱の星ですが、占星術では、空を翔けめぐる使者の星とされています。軽快でせわしない動きがそれを表現します。どこか滑稽で捉えどころのないメロディは優柔不断さを感じさせます。

第4曲：木星 - 快楽の神 天文学的にも太陽系最大の惑星である木星にふさわしい、ダイナミックで雄大な楽章です。中間部で朗々と弦楽器が奏でる旋律は、色々な歌手が歌詞をつけてポピュラー音楽としても歌われていますので、必ず聴いたことがあるでしょう。中間部だけでなく、前半と後半もとても親しみやすく躍動感のある音楽です。

第5曲：土星 - 老年の神 ホルスト自身は、この楽章を最も気に入っていたそうです。玄人好みの、複雑で凝った響きを持つ音楽です。曲は、コントラバスによる、もの憂い老年の嘆きを思わせるような主題から開始されますが、やがて、威厳と風格を感じさせる荘厳な雰囲気になっていきます。

第6曲：天王星 - 魔術の神 金管楽器が、大声で呪文を叫ぶように開始されます。ファゴットが滑稽なリズムを刻みます。次第に大きく発展していき、乱れ打ちの様なティンパニを伴う奇妙キテレツなマーチになりますが、オルガンの猛烈なグリッサンドで曲は止まり、不気味な余韻を残しつつ楽章は終わります。

第7曲：海王星 - 神秘の神 聴き手を無限の宇宙へ誘う音の世界が、女声合唱を伴って表現されます。ホールは幻想的で不思議なサウンドで満たされていき、次第に響きは虚空へと溶け、「無」「静寂」の世界へ消えていきます。指揮者が手を降ろすその瞬間まで、静寂も含めて音楽として味わっていただければ幸いです。



グスターヴ・ホルスト

【高響倶楽部法人会員】

香川トヨペット 株式会社
社会福祉法人 サマリヤ
ネットヨタ高松 株式会社



スタインウェイピアノ 香川県正規特約店
有限会社 **高松ピアノ工房**
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム/
高松市木太町7区3685 TEL:087-833-6049
■工場/
高松市木太町7区3464 TEL:087-833-9433

各種行事の記録ビデオ制作をはじめ映像情報コンテンツの制作なら

株式会社 **よんでんメディアワークス**

TEL (087) 818-1071
FAX (087) 818-1072
URL <http://www.ymw.co.jp>
E-mail info@ymw.co.jp



楽器堂
GAKKIDO CORPORATION
www.gakkido.jp



いい音楽との出会いを大切にします
ピアノ/管楽器 弦楽器 キターベース 打楽器 及び楽譜販売
楽器堂オーバサイオンモール高松店
高松市香西本町1-1イオンモール高松1F
TEL: 087-832-8016

楽器に関するご相談、何でも受付中です！

Profile



指揮 曾我 大介 *Daisuke Soga*

1993年ブザンソン、1998年コンドラシンの二大指揮者コンクールで第1位。以降日本はもとより、ヨーロッパ、南米を中心に世界各地に客演。近年では2015年6月にベルリン・フィルハーモニーホールにおけるベルリン交響楽団ベートーヴェン「第九」公演、2016年4月にルーマニアのブラショフ・オペラで「リゴレット」を指揮するなど活躍を続けている。ルーマニア国立放送交響楽団首席客演指揮者、大阪交響楽団音楽監督などを歴任し、現在東京ニューシティ管弦楽団正指揮者。音楽祭や講習会の講師、コンクール審査員、作曲家としても活躍中。著書に、『《第九》虎の巻』『《第九》合唱譜』、『聴きたい曲が見つかる！クラシック入門』、デルタ・クラシックスよりCD各種リリース。ルーマニア・ブラショフ市とブラジル・ロンドリーナ市名誉市民。オフィシャルホームページ www.soga.jp/



コンサートマスター 福崎至佐子 *Hisako Fukuzaki*

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巖本眞理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチュエフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グレーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グレーラー氏と弦楽四重奏を組みTV、FM東京、CM、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターをつとめる。現在、高松大学名誉教授。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ (KJO) 音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞 (文化功労)」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第20回 (2011年) 第23回 (2014年) 日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。

合唱 高松第一高等学校合唱部

創部60年をこえる歴史を持つ四国を代表する混声合唱団。1977年にNHK全国学校音楽コンクールで全国最優秀賞受賞、同年全日本合唱コンクール全国大会でも金賞受賞。以後、全国大会常連校として常時出場、1991年、2004年、2008年にも全日本合唱コンクール全国大会にて金賞受賞。高校A・B2部門全国大会ダブル出場6回。今年8月15日にはサンポートホール高松大ホールにて第40回定期演奏会を開催、好評を博した。さまざまな行事やイベントにも積極的に参加する、自称「日本一の出たがり合唱団」である。現在、部員数35名。

管弦楽 高松交響楽団 *Takamatsu Symphony Orchestra*



1951 (昭和26)年8月、故 緒方益園氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾来、半世紀以上に亘る活動を続け、2016年に創立65周年を迎えた。これまで110回を超える定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演 (2008年)、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・ブラーナ (バレエ付き)」公演 (2009年)をはじめ、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001年に迎えた創立50周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジクム高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ (KJO)」、2003年1月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ (MCO)」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。